

日本がふくじゆうしなかったから。2回目は、フビライハンの使者を日本側がころしたからとふくじゆうをもとめるため。

- ・元はチンギスハン(皇帝)を元にヨーロッパ・アジアを制ふく。
- ・フビライ・ハン(皇帝)は高麗に服従を求めるが、30年間抵抗→結局服従
- ・1274～忠烈王(こりよの王)は元にみつぎ物を送る。
- ・元は日本に服従を求める国書を送る。元と高麗に反対し続けている三別抄からも国書を送る。
- ・日本は不審に思って返事をしなかった。
- ・文永の役、弘安の役が起こる。
- ・国書で前もって知っていた日本は備えていったので運などで勝つことができた。

幕府が手紙を出すむし。キレた。  
高麗⇄モンゴル←忠烈王が元と高麗とのつながりを強固にするため、元寇がたんじょう。  
さんべつしょうの乱→ていこうする  
→元→幕府に手紙→幕府むし→幕府戦とう準備→戦

モンゴル帝国は、強大な武力を背景に周辺の国々に服従を求める。こうらい王朝は、モンゴルに服従することを決める。1268年朝鮮人が元へ服従を求める国書を朝廷にだしたが、幕府は、元のようにきゆうに従わないことを決め、国書に返事をしなかった。モンゴルのしん攻というこくなんに備え、幕府と朝鮮が一体となって国全体が共にたたかう体せいが整えられた。

モンゴル帝国は強大な武力を背景に、周辺の国々に服従を求める。  
こうらい王朝はモンゴルに服従することを決めた。  
1268年 朝鮮が元への服従を求める国書を朝ていに出したが、ばくふは元の要求に従わないことを決め、国書に返事をしなかった。モンゴルのしんこうという国難に幕府と、朝廷が一体となって国全体が共に戦うたいせいが整えられた。

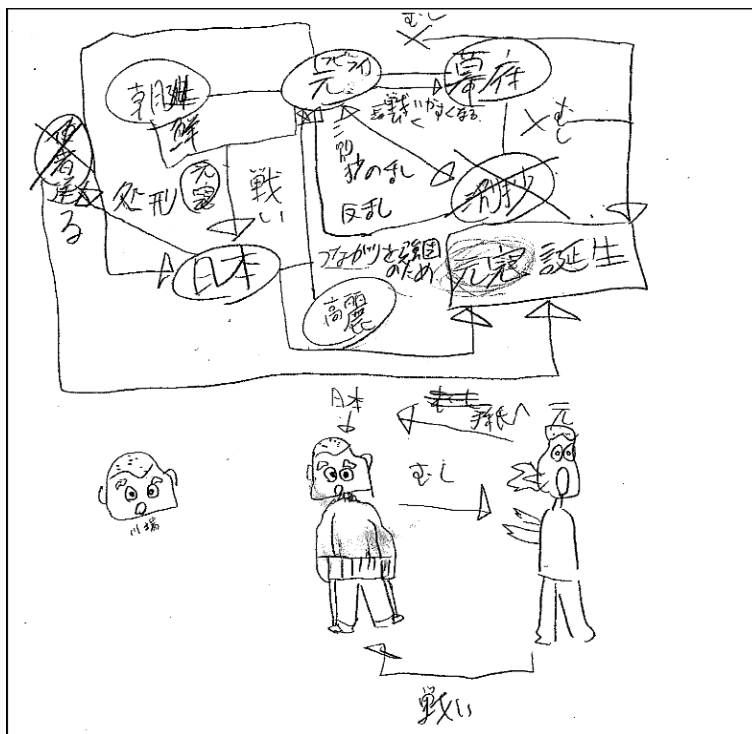
<1回目> 忠烈王が元に提案  
元は、高麗を通じて、服従を求める手紙を日本に出した。日本は無視。元に抵抗していた三別抄から、援助を求める手紙←高麗から服従の手紙。日本は返事をしなかった。  
<2回目>  
使者を出したけど、すべて処刑された。  
↓  
元は、日本に本格的な侵攻を決めた。  
「何としても服従せぬかー！！」by フビライ。ならば！！せめる。

元はこりよを通じて日本に、服従を求める手紙を出した。日本は無視。こりよから服従を求める手紙が来て。元に抵抗していた三別抄から援助を求める手紙がきた。  
日本は2つから矛盾したものが来たので返事をしなかった。  
忠烈王がていあんして、1回目。2回目は1回目だよわっている日本に使者を出たら処刑されたので2回目。

- ①モンゴルてい国は強大な武力を背景に周辺の国々に服従を求める。
- ②こうらい王朝はモンゴルに服従することを決めた。
- ③1268年、朝せんが元への服従を求める国書を朝ていにだしたが、ばくふは元の要求に従わないことを決め、国書に返事をしなかった。
- ④モンゴル人のしん攻という国難に備え、幕府と、朝廷が一体となって国全体が共にたたかう体せいが整えられた。

元に提案→平等にするため  
鎌倉幕府が元からの手紙を無視←元は武力を背景に、周りの国を服従  
↓  
元からの使者を処刑  
↓  
元は怒り、日本へ出兵  
↓  
元寇の誕生

- ・元はチンギス・ハン(皇帝)を元にヨーロッパ・アジアをせいふく。
- ・フビライ・ハン(皇帝)は高麗に服従を求めるが、30年間でいこう→結局服従
- ・1274～高麗の王は、は元にみつぎ物を送る。
- ・元は日本に服従を求める国書を送る。  
同じころ→元と高麗に反対し続けている三別抄からも国書を送る。
- ・日本は不審に思って返事をしなかった。
- ・文永の役、弘安の役が起こる。
- ・国書で前もって知っていた日本は備えていったので運などで勝つことができた。



①モンゴルは強大な武力を背景に周辺の国々に服従を求め、  
 ②どうも五朝はモンゴルに服従することを決めた。  
 ③268年、朝鮮も元への服従を求め、国書を朝貢した。これは元への要求に従わないことを決め、国書に返垂をしなかった。  
 ④モンゴルのし攻という国策に備え、幕府と朝廷が一体となり、国全体が共にたたかう体制を整えられた。

